

## 中学生の「税についての作文」

大川大木租税教育推進協議会 会長賞

### 税金のバトンを受けとって

大川市立大川桐英中学校

三年 山崎 莉音

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」これは、私たちが普段から学校で使っている教科書に書いてある言葉です。私たちが毎年、新しい教科書を受け取れるのも税金のおかげなのです。教科書は、私たちが学ぶ上で必要不可欠なものです。もし、税金がなかったら、一冊一冊の費用を家庭が負担しなければなりません。そうすると、経済的な理由で十分な教育が受けられない人も出てくると思います。教科書が税金によって無償で提供されることにより、すべての子どもたちが平等に教育を受けられるのです。また、教科書だけでなく普段、登下校している道路や通っている中学校の校舎の修理や新しい教材の購入、先生方の給料などにも税金が使われていると知って税金のありがたみを感じることができました。

このように、教科書が無償であることや、安全な校舎であることは、私たちにとって当たり前のようですが、これは

「税金」という社会全体の協力によって支えられている証なのだと感じました。税金があるからこそ、誰もが最低限の生活を保障され、教育や医療といった基本的な権利を受けることができます。そして、私たちが未来に向かって安心して学び続けるための大切な土台にもなっています。この土台は、私たちよりも前の世代の人々が納めた税金によってつくられたものだと分かります。税金は、現在と未来をつなぐ大切な「バトン」なのです。

つまり、今の社会は「大人の努力」によって成り立っており、その基盤のひとつが税金です。税金は現在をより良くするためだけでなく、将来のためにも使われています。例えば教育や、子育て支援、地球温暖化への対策、防災などは、未来をつくるための投資とも言えます。

私は将来、どんな未来をつくりたいか考えながら税金を納めていきたいです。自分が納めた税金がどう使われているかを考えることも、未来をより良くするための第一歩だと私は信じています。

